

就労意識と習い事に関する
マーケティングデータ
～就労意識と転職意向編～

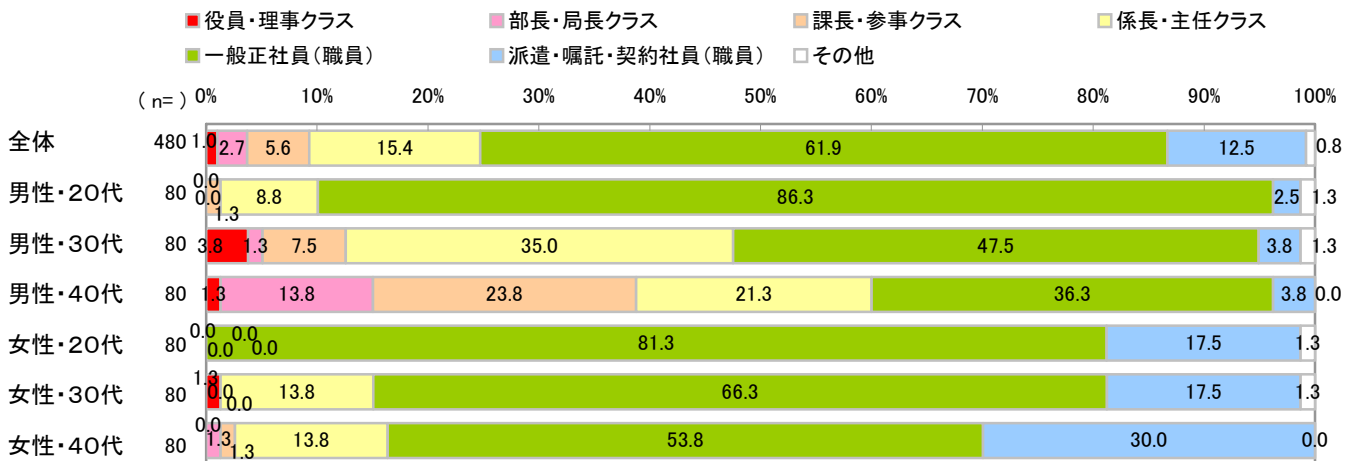
朝日大学マーケティング研究所

調査概要

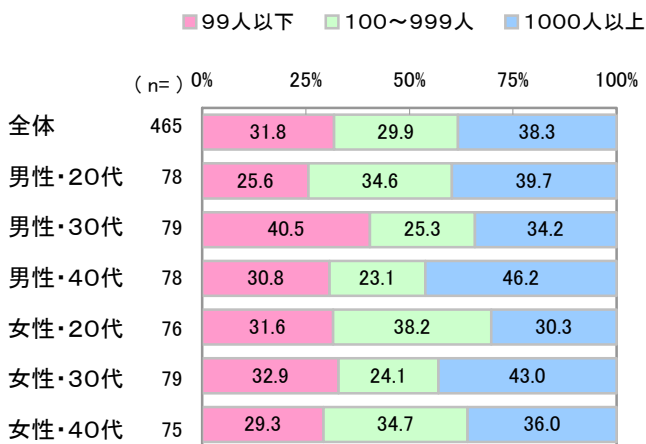
- 調査方法 Webアンケート
- 調査期間 2011年3月22日(火)～3月23日(水)
- 調査対象 首都圏在住の20歳～49歳男女で、かつ、給与所得者
- 有効回答 合計480名(均等割付)

年代	男性	女性
20～29歳	80名	80名
30～39歳	80名	80名
40～49歳	80名	80名
合計	240名	240名

参考:現在の仕事の職位

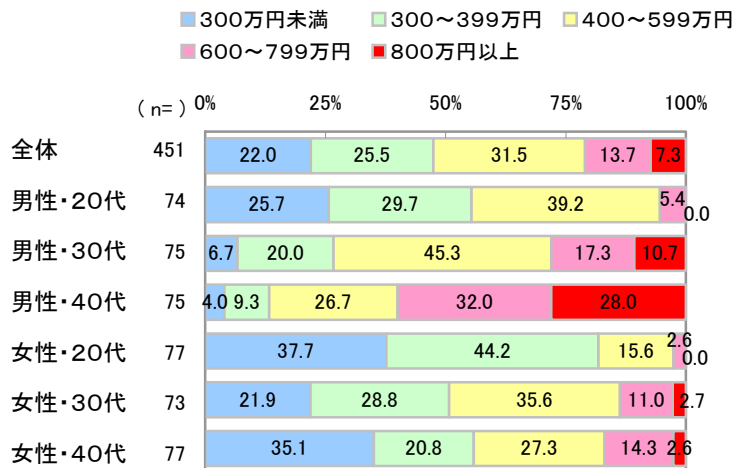


参考:現在所属している企業・組織の従業員規模



※「わからない」を除いて集計

参考:個人年収



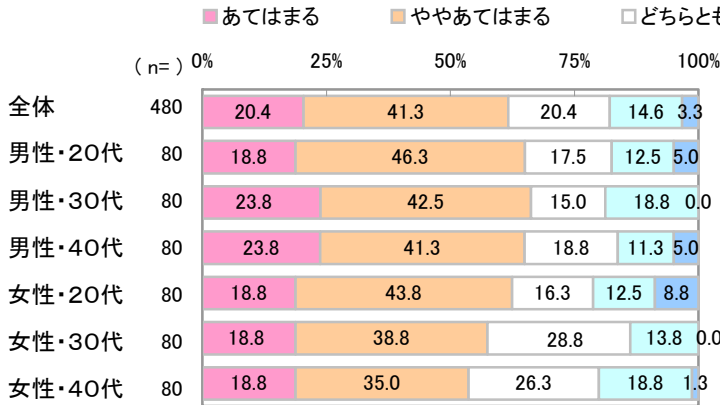
※「わからない・教えたくない」を除いて集計

1. 就労意識

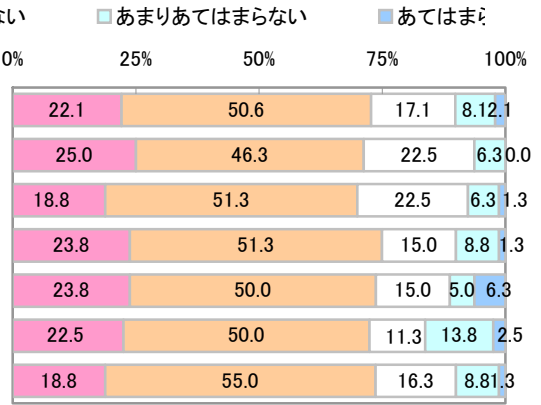
58.9%が今後の給与の伸び悩みを予測。給与の伸び悩み予測と仕事のやる気に関係。

- 「現在の仕事にやる気がある」に「あてはまる」と回答したのは全体の20.4%で、「ややあてはまる」を含めると、全体の61.7%が「やる気がある」と回答している。一方で「現在の仕事にストレスを感じる」人も同程度いる。
- 「仕事内容と給与の関係」では、全体的に仕事内容に対して給与が妥当、もしくは少なめに感じている人が多い。
- 女性に比べ、男性のほうが転職意向が低い。
- 「今後、自分の給与はあまり増えないと思う」は全体の58.9%に達し、男女とも40代が多い。また、現在の仕事にやる気がない人ほど、今後の給与は伸びないと感じている。

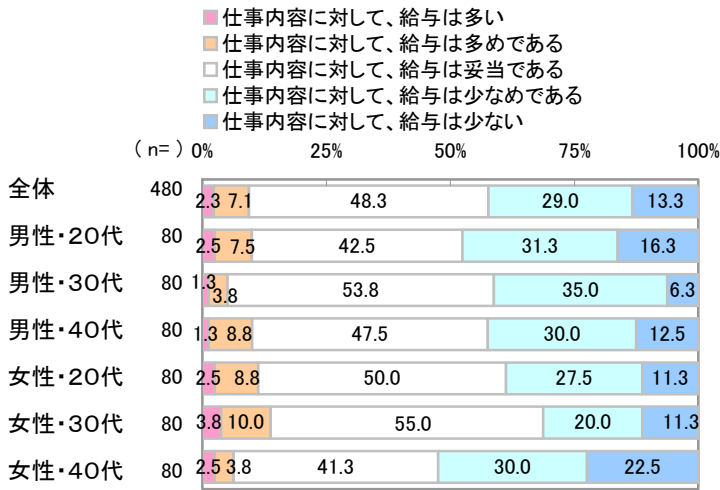
現在の仕事にやる気がある



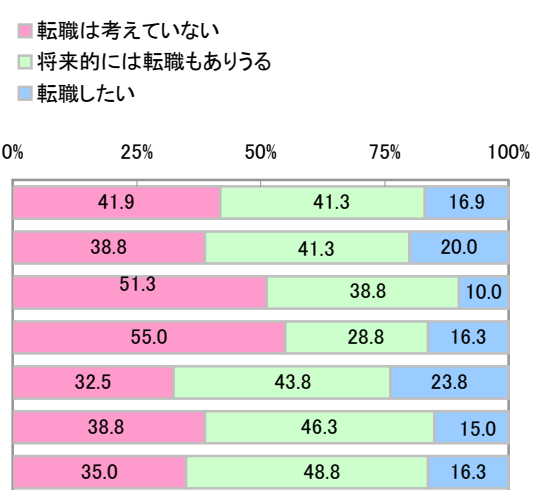
現在の仕事にストレスを感じる



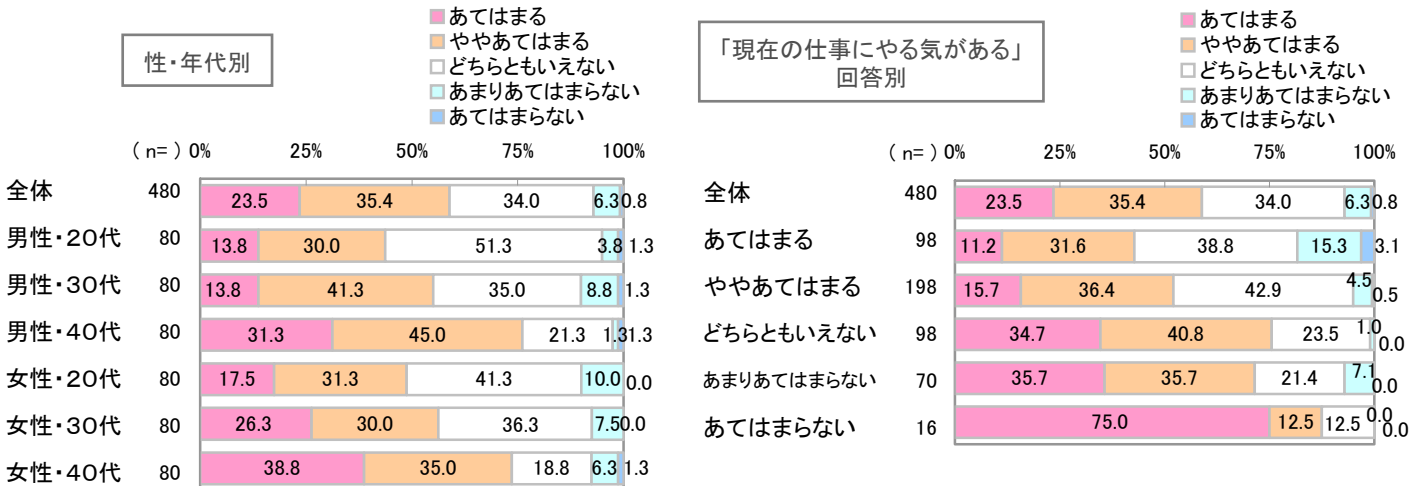
仕事内容と給与の関係



今後の転職意向



今後、自分の給与はあまり増えないと思う

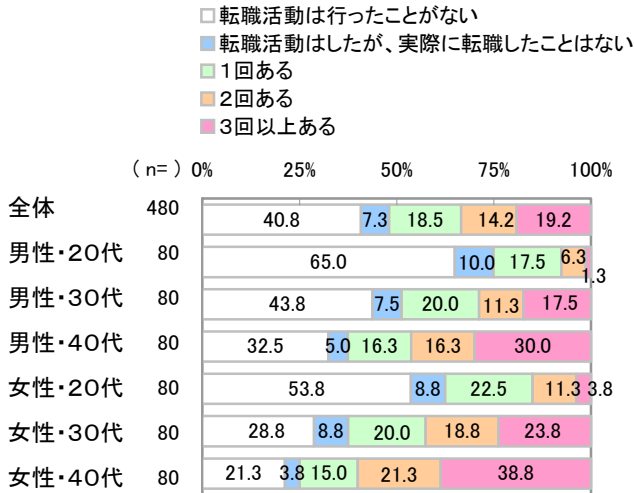


2. 転職と就労意識

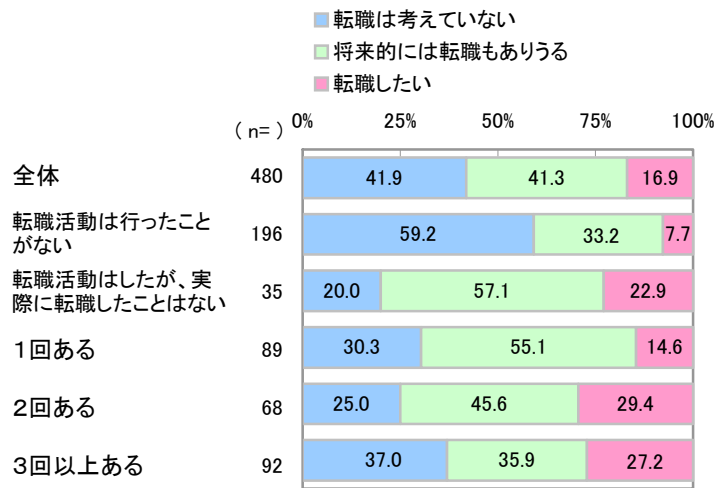
小規模の企業・組織に勤めていて、収入が低い人ほど転職意向がある。転職意向がある層は、給与が伸びないことを想定。

- 性・年代別で見ると年齢が高い層ほど転職経験は豊富である。転職経験が豊富である層は、傾向として転職意向も高い。
- 転職活動未経験の人のうち、転職意向がない「終身雇用的価値観」の人は59.2%である。この「終身雇用的価値観」の人が、調査対象者全体に占める割合は24.2%である。
- 小規模の企業・組織に勤めているほど、あるいは、個人年収が低いほど、「転職したい」とする比率は高い。
- 転職意向がある層は、給与が伸びないことを想定している

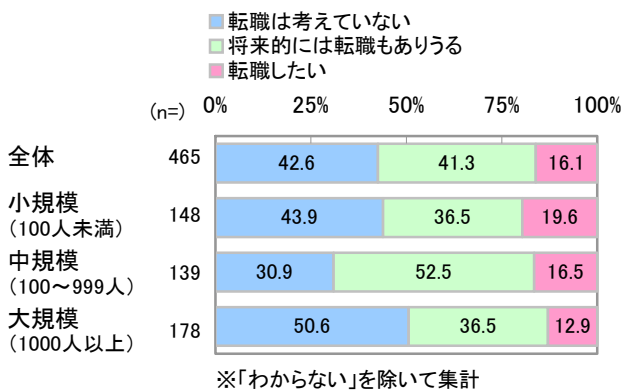
これまでの転職経験



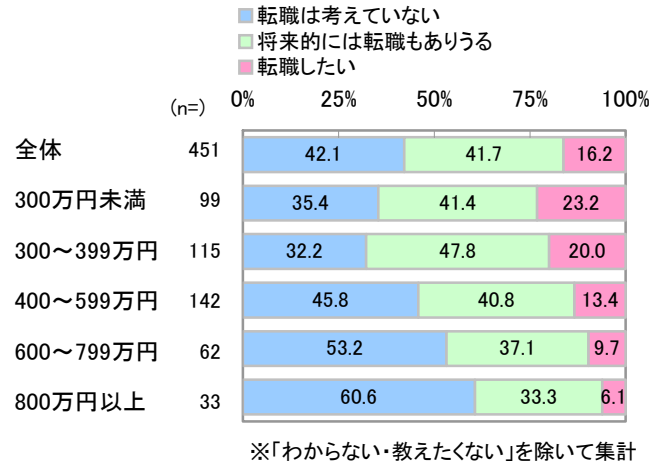
今後の転職意向(転職経験別)



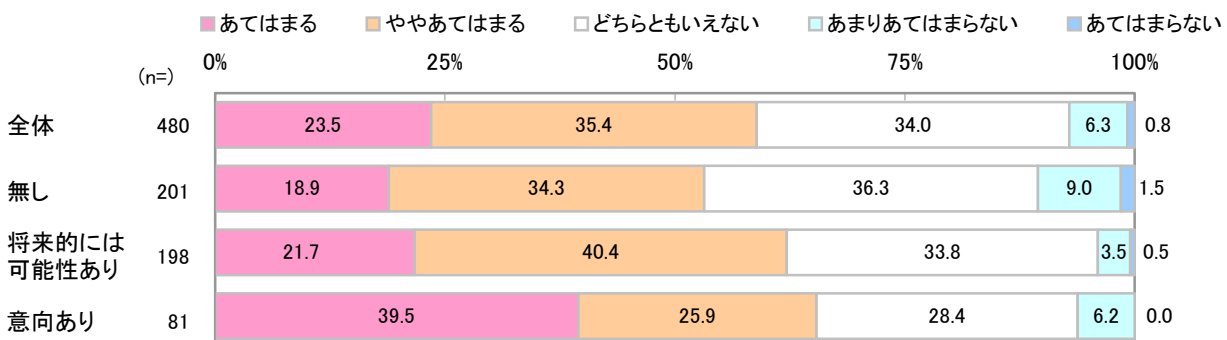
今後の転職意向(勤務先規模別)



今後の転職意向(個人年収別)



今後、自分の給与はあまり増えないと思う(転職意向別)



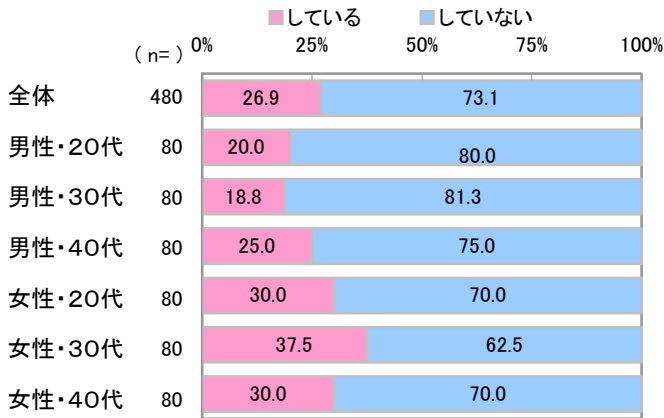
3. 習い事・スクーリングと就労意識

習い事・スクーリングをしている人は全体の26.9%。男性は仕事目的、女性は趣味・教養目的の人が多い。

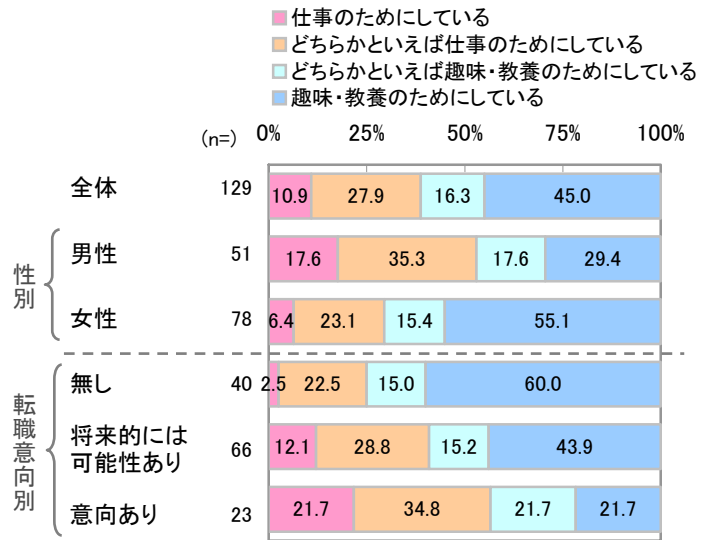
- 全体の26.9%が「習い事やスクーリング(スポーツ含む)・資格勉強」をしている。性・年代別では、男性よりも女性の方が、習い事・スクーリングをしている割合が高く、女性・30代は37.5%と最も高い。
- 習い事・スクーリングをしている人の目的をみると、男性は仕事目的が多く、女性は趣味・教養目的が多い。転職意向別では、転職に積極的なほど、仕事目的で習い事・スクーリングをしている。
- 今後の給与が伸びないことを想定している人は、習い事・スクーリングの目的が二極化している。
- 仕事目的で習い事・スクーリングをしている人でも、何もしていない人と同様に今後の給与の伸び悩みを予測している。

習い事やスクーリング(スポーツ含む)・資格勉強

※企業や所属機関から命じられて行っているものは除いている

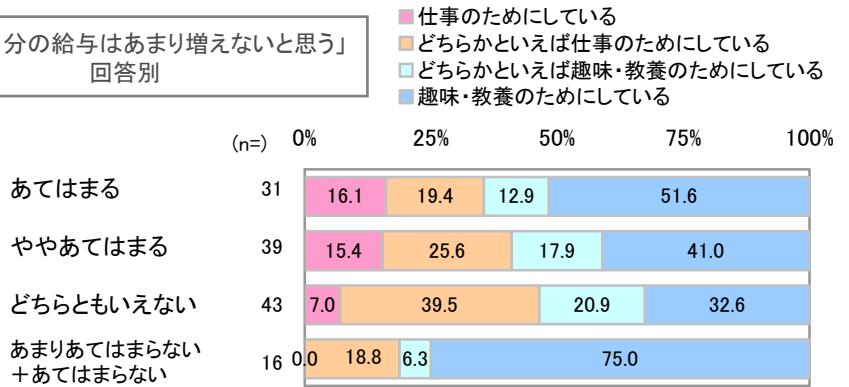


習い事やスクーリング(スポーツ含む)をする目的

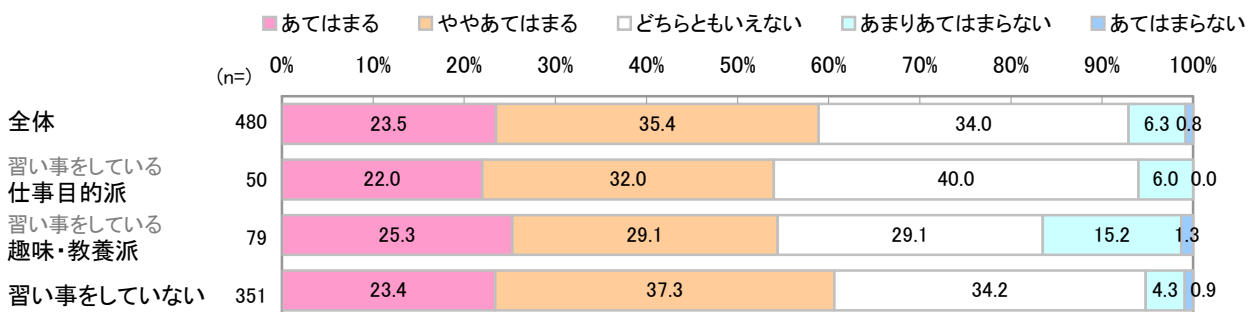


※習い事やスクーリング(スポーツ含む)・資格勉強を「している」回答者のみ集計

「今後、自分の給与はあまり増えないと思う」
回答別



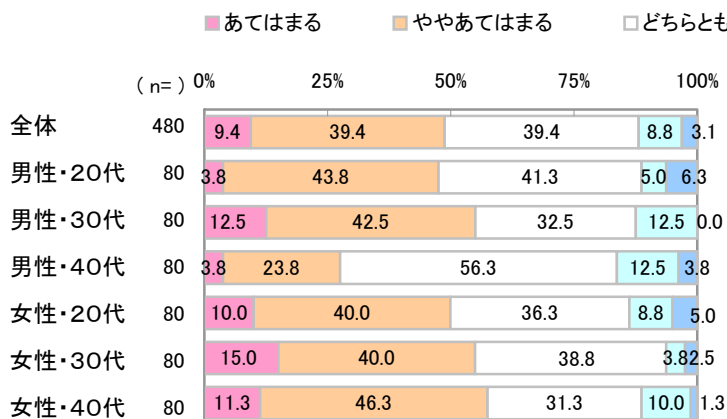
今後、自分の給与はあまり増えないと思う(習い事・スクーリング区分別)



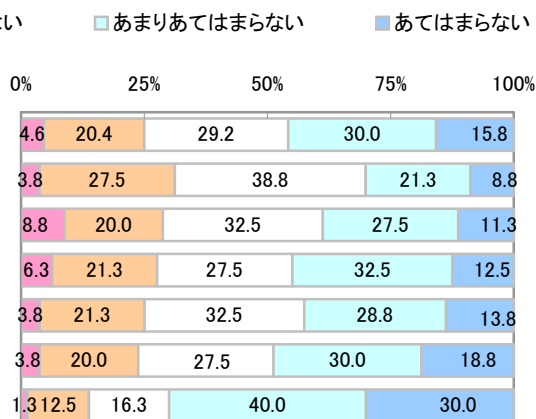
4. 就労意識(参考データ)

- 年齢層が下の男性ほど、同僚に付き合って残業してしまう傾向がある。女性40代は逆に付き合い残業に否定的である。
- 「海外で働きたい」という人は、全体的に少ない傾向にある。
- いわゆる学歴信仰は、男性の方が低く、女性の特に上の年齢層で高い。
- 「苦勞をしてでも、良い給与や役職を手に入れたい」とする人は、男性では年齢が若いほど多く、女性では年齢が高いほど「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の比率が下がる。

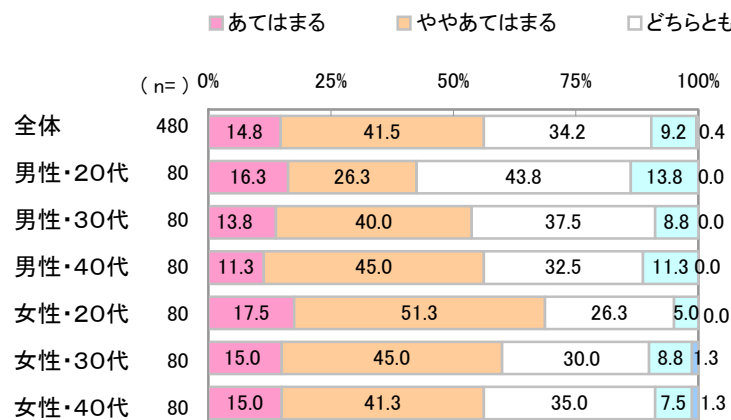
外見も仕事にとって重要な要素である



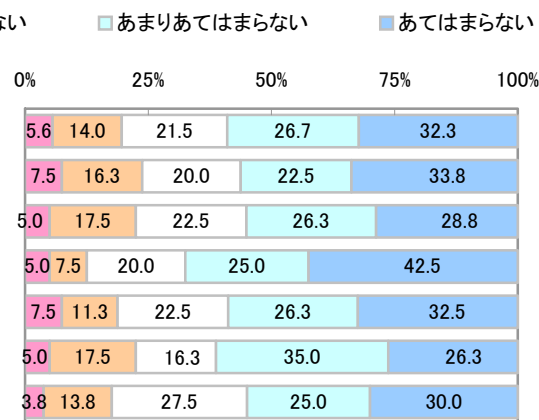
自分の仕事を終えていても同僚に付き合って残業してしまう



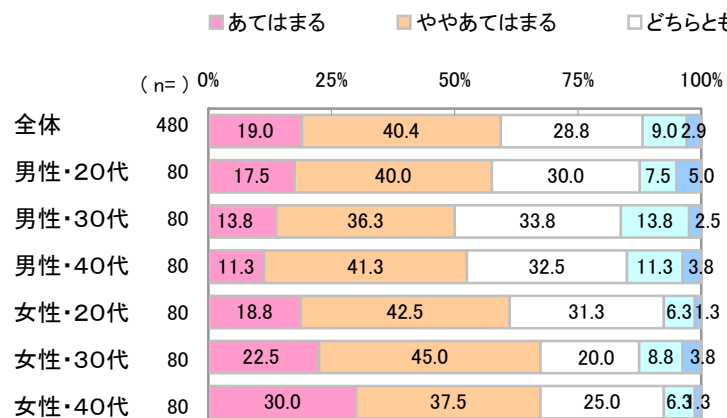
責任のある仕事よりも、マイペースにできる仕事がしたい



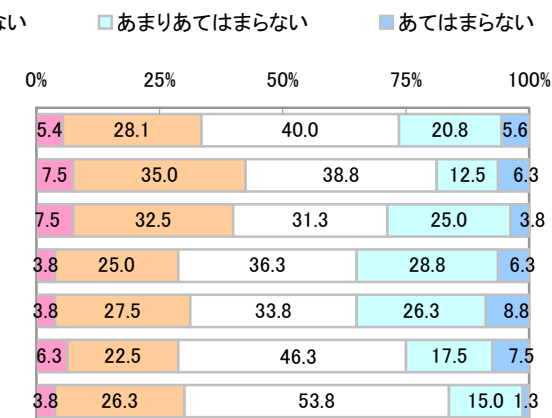
海外で働きたい



有名な大学や学校に通ったほうが、将来は有利になると思う

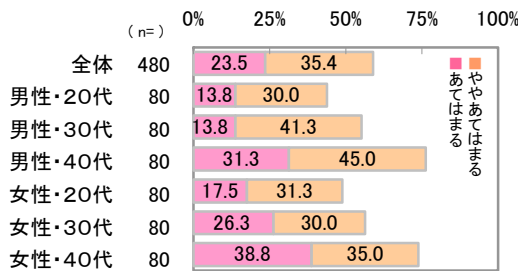


苦勞をしてでも、良い給与や役職を手に入れたい



結果① 58.9%が今後の給与の伸び悩みを予測。給与の伸び悩み予測と仕事のやる気に関係。

今後、自分の給与はあまり増えないと思う

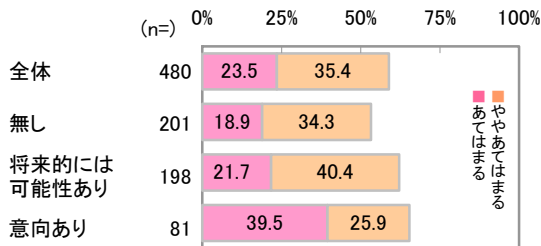


全体の58.9%が、今後、自分の給与はあまり増えないと思っており、男女とも年齢が高いほど、その割合も高い。給与の伸び悩み予測が消費マインドに長期的な影響を与えることが懸念される。

また、仕事のやる気と今後の給与予測には関連があり、仕事にやる気がない人ほど、今後の給与に悲観的である。

結果② 収入が低い人ほど転職意向がある。転職意向がある層は、給与が伸びないことを想定。

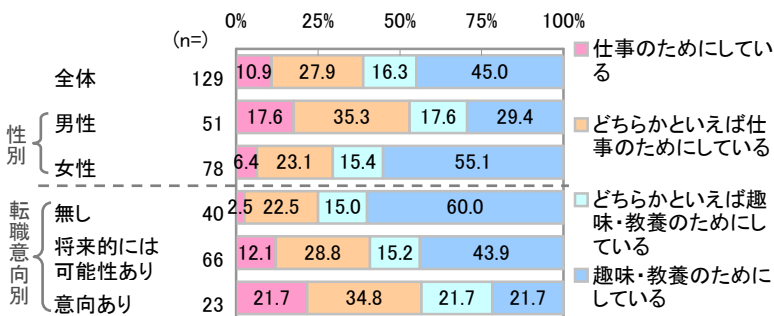
今後、自分の給与はあまり増えないと思う (転職意向別)



小規模の企業・組織に務めていて、収入が低い人ほど転職意向がある。また、転職意向の高い人は、給与が伸びないことを想定している人が多い。

結果③ 習い事・スクーリングをしている人は全体の26.9%。男性は仕事目的、女性は趣味・教養目的。

習い事やスクーリング(スポーツ含む)をする目的



習い事・スクーリングをしている人の目的をみると、男性は仕事目的が多く、女性は趣味・教養目的が多い。転職意向別では、転職に積極的なほど、仕事目的で習い事・スクーリングをしている。

明確に転職や給与増を目指して、習い事・スクーリングをする人がいる一方で、そうしたものはあきらめて趣味・教養に力をいれている人もいるようだ。

結果から推測される仮説

■ 就職して20年を過ぎてくる40代が、日本の経済事情、会社における地位、会社の収益状況を勘案して給与の伸び悩みを感じているのは理解しやすい。しかしながら、20代において、半数近くが「今後、自分の給与はあまり増えない」と思っているのは大きな問題である。また、若者世代の人口減によるボリュームの縮小とあいまって、長期的にみれば消費マインド低下への影響は計り知れない。既に「若者の〇〇離れ」という形で消費者のライフスタイル変化が叫ばれているが、一時的な不景気ではなく、恒久的に給与が伸びないということを前提とした商品設計やサービス開発が必要となろう。

■ 今後の給与に悲観的な層は、習い事・スクーリングの目的という観点からみると、明確に転職や給与増を目指している層と、そうしたものをあきらめている層とに二分されている。若者の給与が伸び悩む中で、将来の転職や給与に直結する実務系のターゲットと、仕事にはつながらなくても心の拠り所となり生活を豊かにする趣味・教養系のターゲットはより鮮明化してくることが予想される。習い事やスクーリングを提供する企業は、巧みにターゲットを見極め、対象に合った明確なメッセージでアピールするなど、2極化への対応が必要である。

トピックスリサーチ

就労意識と習い事に関する
マーケティングデータ
～就労意識編～

発行日 2011年 3月 31日

発行・調査分析 朝日大学 マーケティング研究所
〒460-0002
愛知県名古屋市中区丸の内3-21-20
朝日丸の内ビル2F
TEL : 052-961-4576

お問い合わせ apost@dance.ocn.ne.jp